

<秋冬ブロッコリーの栽培ごよみ>

栽培記録は必ず記帳すること！

時 月	期 旬	作 業	防 除 体 系			
			対象病害虫	薬剤と濃度(収穫前日数と総使用回数)	水100ℓ当り薬剤量	10a当り散布量
7	中	播 種				
	下	基 肥 ①				
8	上	雑 草 対 策	一 年 生 雑 草	ザクサ液剤 (前日まで2回以内)	300mℓ	150 ℓ
	中	定 植 前	菌 核 病	パレード20フロアブル 100倍 (育苗期後半～定植当日・1回)	箱苗かん注	1箱0.5 ℓ
		基肥②・防除	根 こ ぶ 病	フロンサイド粉剤 (定植前・1回) または オラクル顆粒水和剤 200倍 (定植前・2回以内)	全面土壌混和	40kg 1箱0.5 ℓ
		防 除	ネキリムシ類	ダイアジノン粒剤5 (播種時又は定植時2回以内)	全面土壌混和又は 作条土壌混和	6kg
	下	う ね 立 て	コ ナ ガ ア オ ム シ ハスモンヨトウ	プレバソンフロアブル5 100倍 (定植当日・1回)	箱苗かん注	1箱0.5 ℓ
		定植・防除	黒 腐 病	オリゼメート顆粒水和剤 100倍 (定植時・1回)	箱苗かん注	1箱0.5 ℓ
9	上	防 除	ア オ ム シ コ ナ ガ ハスモンヨトウ	アフームエクセラ顆粒水和剤 1,000倍 (7日前まで3回以内)	100 g	150 ℓ
			花 蕾 腐 敗 病	Zボルドー 500倍 ※発蕾前の軟腐病・黒すす病防除を必ず行う	200 g	150 ℓ
	中	追 肥 ②	コ ナ ガ ハスモンヨトウ	アクセルフロアブル 1,000倍 (前日まで2回以内)	100mℓ	200 ℓ
		防 除	黒すす病・べと病	シグナムWDG 1,500倍 (7日前まで2回以内)	66 g	200 ℓ
		防 除 (大雨、強風前後)	花 蕾 腐 敗 病	Zボルドー 500倍	200 g	200 ℓ
	下	防 除 (発蕾始)	黒すす病・べと病	アミスター20フロアブル 2,000倍 (前日まで3回以内)	50mℓ	200 ℓ
10	上		コ ナ ガ ア オ ム シ ハスモンヨトウ	プレバソンフロアブル5 2,000倍 (前日まで3回以内)	50mℓ	200 ℓ
	中	収 穫 ↓	※コナガ・ハスモンヨトウが多発した場合は、フェニックス顆粒水溶剤2,000倍(前日まで2回以内、300ℓ/10a)を散布する。 ※大雨、強風前後は花蕾腐敗病対策として、Zボルドー(500倍、使用時期、使用回数制限なし)を散布する。			
	下					

※対象病害虫の欄に { がある農薬は混用事例あり

●…種まき ○…植えつけ ■…収穫

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
夏 ま き							●	○		■			おはよう

作 業 の 要 点

1. ほ場準備

- ・排水良好なほ場を選定する。→大麦跡地ほ場を利用し、弾丸暗渠、額縁排水溝を設置する。
- ・ほ場の排水対策を徹底し、できるだけ25cm以上の高うねとする。

2. 育 苗

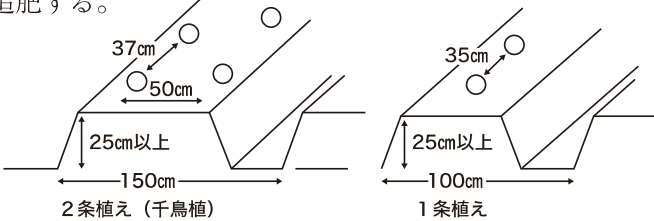
- ・播種時期は7月20日～8月5日、定植時期は8月20日～30日を目安とする。
- ・右図のように、苗箱は、ブロックなどで15cm以上浮かせておく。
- ・高温期となるため、寒冷紗等をハウスに屋根掛けするかトンネル掛けする。
- ・定植前にパレード20フロアブルを苗箱にかん注する。
- ・本葉1～2枚時に野菜の達人(500倍液)で追肥する。



ブロック等を利用した育苗

3. 栽植密度

	2条植え	1条植え
うね幅	150cm	100cm
うね高	25cm以上	25cm以上
株間	37cm	35cm
条間	50cm	—
10a当り本数	3,600本	3,000本



4. 標準施肥量

肥 料 名	総量	基肥		追肥		備 考
		①全層	②うね	①	②	
醗酵けいふん	150	150				・追肥①は定植7日後に施用 ・追肥②は定植25日後に施用
そさい3号プレミア	100		100			
やさい隣加安S540	60			30	30	
F T E	4		4			

※単作の場合は苦土石灰100kgを施用する。

5. 定 植

- ・プレバソンフロアブル5とオリゼメート顆粒水和剤を苗箱にかん注する。(コナガ、黒腐病対策)
- ・8月15日前の定植は原則避ける。
- ・本葉2～3枚で定植する。
- ・定植後に十分かん水し、活着を早める。

6. 雑草対策

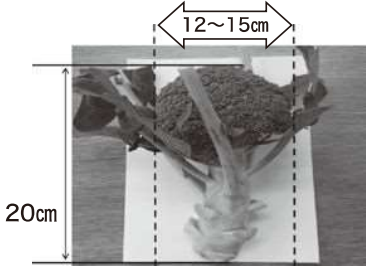
- ・ザクサ液剤(前日まで2回以内 300～500mℓ/10aを水150 ℓに希釈)を定植前に散布する。
- ・フィールドスター P乳剤(雑草発生前まで1回 50mℓ～75mℓ/10aを水100 ℓに希釈)を定植1～2日後に散布する。高温時(気温30℃以上)には散布しない。
- ・ブリグロックスL(3日前まで3回以内 うね間処理 600～1000mℓ/10aを水100～150 ℓに希釈)をグラカバーを使用してうね間散布する。

7. 花蕾の黒すす病対策

- ・9月以降、発蕾前後の防除(シグナムWDG、Zボルドーとアミスター 20フロアブル)を必ず行う。

8. 収穫調製

- ・収穫適期幅が短く、適期を過ぎると品質が著しく低下するので早めに収穫する。
- ・収穫適期は、花蕾の直径が12～15cmとするが、大きさだけで判断せず小花の肥大程度も考慮する。
- ・収穫切り高は、花蕾最上部より20cm以上とする。
- ・収穫は、原則として早朝の涼しい時間帯に行う。
- ・収穫後は、すみやかに予冷库に搬入する。



※ブリグロックスLの引渡しには、印鑑が必要。